

DI 調査結果（令和4年10月-12月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『景況感は改善傾向にあるものの原材料価格の高騰による収益逼迫や  
部品・材料の供給不足、海外経済の動向に留意する必要がある』

【調査概要】

1. 今期(令和4年10月-12月期)の業況調査 DI12 項目では、「売上高」など7項目がプラス、「収益状況」など5項目がマイナスとなり、9項目が改善している。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
  - (1) 景況感を端的に表す「売上高」は、26.6(前回12.7)と上昇しているが、原料高や需要増等によって高騰が続く「原材料価格」が改善しながらも▲68.5(前回▲79.6)と依然として高値で推移している。また、「収益状況」も▲8.1(前回▲18.9)と改善傾向ではあるが引き続きマイナスとなっている。
  - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」12.3(前回4.4)と上昇しているが、「受注残」14.6(前回19.6)、「生産設備」16.7(前回17.1)と、減少が見られた。
3. 来期については、「来期受注」5.1(前回8.7)と、多少低下傾向であるがプラス域で推移している。「来期採算」▲10.5(前回▲11.5)「来期資金繰」▲2.7(前回▲7.2)はマイナス域となっており、部品入手困難による生産調整や原材料価格の高騰による影響が引き続き見受けられる。
4. 「企業経営上の悩み」については、「人材不足」が33.3(前回27.3)と上昇しており、原油価格や原材料価格の高騰等の懸念材料があるものの、少子化に加えコロナ後の経済回復とともに人材不足がより大きな不安材料となっている。
5. 景況感は改善傾向にあるものの、依然としてロシア・ウクライナ問題等の影響による鋼材・エネルギー関連の高騰で収益状況が逼迫している。加えて、部品・材料の供給不足や海外経済の動向により生産調整を余儀なくされ、先行きは不透明感がさらに強くなっている。

